

2020年3月10日(火)

### 1尾(匹)元気がありません

きのうまでみんな元気だったのに、朝、1尾のサケが動かなくなっていました。

それでもエラ呼吸をしてがんばって生きようとしています。



ほかのサケにつつかれないよう、網のなかにいれ、水槽にうかべて育てることにしました。

とつぜん元気がなくなったことが気になったので、水がよごれていないかどうか亜硝酸試験紙でしらべることになりました。

すると・・・



うすにピンクなので、すぐよごれています。いろがなので、きれいです。

よごれがひどくなるとサケが生きられなくなります。すぐに水槽の半分をきれいな水にとりかえて、よい水をつくるバクテリアもいれてみました。

**けっか** 3月17日でピンクいろがでなくなりました。それでもサケのフンは毎日そうじしています。(弱っていたサケも3月17日までがんばって生きました)

2020年3月18日(水)

### サケの大きさ

放流(川へはなすこと)の日がちかくなってきました。

そこで、サケの大きさをはかります。

サケは5~6cmになると海へ向かうので、そのくらい大きさを放流するのがよいといわれています。



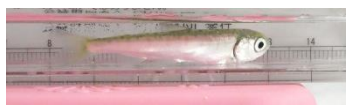
一番大きなサケで体長5.0cm 体重1.0g  
一番小さなサケは体長3.5cm 体重0.5g  
でした。

小学校で育ててもらっているサケは、どれも大きくて、

体長5.0cm 体重1.0g。

いつ放流してもよい

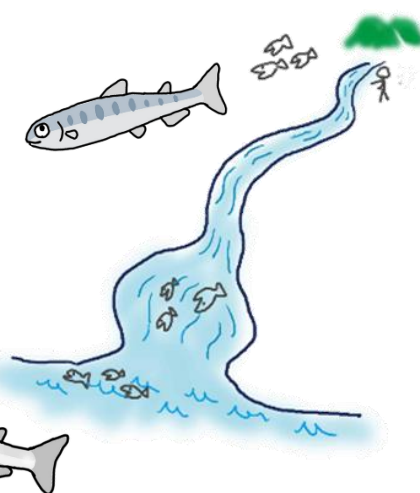
大きさにになりました。



川にはなしたサケは海に向かって泳ぎだし、パーマークとよばれるからだの丸い模様もきえていきます。

海に行くころには、

ピカピカ銀いろのからだになっていきます。



2020年3月26日(木)

### 川へ

いよいよ放流です!

サケたちの旅立ちを祝うかのように、残雪の大雪山が青い空に美しく浮かびあがっていました。



この日を楽しみにサケを育てていた2つの小学校のみなさんは、残念ながら新型コロナウイルスによる学校の休校で参加することができませんでしたが、先生がみんなの思いをのせてサケたちを川へはなしてくれました。



この場所は毎年大人になったサケが海から戻ってきて卵を産んでいるところです。

今日放流したサケも何尾かは、きびしく長い旅を無事にのりきって、数年後にたくましく立派な姿を見せてくれると信じています。

